

親子でジャガイモ栽培体験！～植えて、収穫、手作りコロッケ～

- ベル農会は、松阪農業公園ベルファーム内の農家市場(直売所)に出荷する生産者で構成された組織(会員数280名)。平成24年度から地域の子ども達を対象に、毎年、テーマを変えながら教育ファーム事業を実施。
- 平成30年度は、県内の親子(21家族69名)を対象にジャガイモの栽培を通じ、地域の食文化を学ぶ機会を創出。ジャガイモに関する学習会から始め、種芋の植え付け、収穫、調理体験を実施。ジャガイモに関する学習会とおやつの正しい食べ方については、(株)カルビーの協力を得て実施。栽培指導には、北海道のジャガイモ農家や地元の農家と連携し、収穫までの管理はベル農会が担当。また、調理では、「野菜ソムリエコミュニティみえ」の協力を得て、地元の野菜や松阪牛の肉を使って、コロッケ作りに挑戦。
- 体験を通して「食」に携わる人たちへの感謝の気持ちを育むと共に、地場産物への意識が高まった。



【取組の内容】

- ジャガイモ学習会(6、8月)
 - ・ジャガイモはどこから来たのか
 - ・なぜジャガイモと言うのか
 - ・おやつで食べるポテトチップの量はどれくらいか
- ジャガイモの植え付け(9月)
 - ・種芋には、植える向き(上下)がある
 - ・一番上の芽は伸ばす力が強い
- ジャガイモの収穫(12月)
 - ・株元から離して掘る
 - ・日光に当たって緑色に変色した芋は食べないようにする
- 調理(1月)
 - ・収穫したジャガイモを使った2種類のコロッケ作り
 - ・サバ缶コロッケと地元の松阪牛の肉入りハッシュドポテトコロッケ、付け合わせには、地元の紅芯大根とわさび菜



学習会

種芋植え付け



収穫

収穫



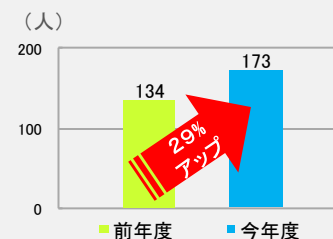
調理

コロッケ

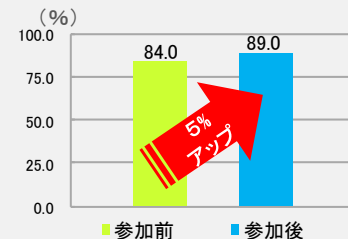
【取組の成果】

- 教育ファームの参加状況と参加を通じた参加者の行動の変化(アンケート結果)

『農林漁業の体験者数』



『国産や地域の食品を選ぶ』割合



<参加者の感想>

- ジャガイモの芽が規則的に出ることを知って驚いた。
- 食卓にジャガイモが上がる度、子どもが体験で収穫したジャガイモか聞いてくる。
- 慣れ親しんだ野菜なのに、知らないことも多く、参考になった。
- 普段、自宅では作れない料理を教えてもらったり、子どもたちが野菜を作り、料理することで、食の大切さを学べた。